

「家がいいね」 第45号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2008.2.13

里雪がよく降ります。子供は3回も雪だるまが作れて嬉しそうでしたが、足元の危ない日は大変でした。氏神さんの獅子舞の休日には幸いにも小春日和。良い事があるようにと、その頭を噛んでもらう人も例年よりもめでました。



ケアマネさん、ありがとうございます

年明けに癌の看取りが続きました。家で最期を迎えられる人は、ケアマネさんが見守ってくれるからこそ可能になったと感じる情景がありました。病院から見放された思いで新年を迎えた方と家族の担当を引き受け、介護保険申請とベッド搬入に奔走してくれたケアマネさん、ありがとうございます。訪問調査の前日に亡くなられ、無料奉仕の形になってしまいましたが、沢山の思いを聴いてもらい、家族は感謝の気持ちで一杯だったそうです。

病名は聞きたくないと頑固そうに見えましたが、実は亡くなった後の事も準備していた方を担当して頂いたケアマネさん、ありがとうございます。ようやくベッドも受け入れて頂き、お腹の水も抜く事が出来て楽になりました。訪問入浴はあと一歩でした。ね。娘さん達に「私を抱いて」と請われて実現しました。「家族皆さんが、亡くなった後で「死ぬって温かいんだね」と言われた言葉が耳に残ります。

お嫁さんの介護を、ヘルパーさんと一緒に心配してくれたケアマネさん、ありがとうございます。認知症のあったその方は、亡くなる前日に我に返ったように「ありがとう」を繰り返され、家族の辛かった介護の日々の記憶を軽くして旅立たれました。

ケアマネさん、人生の終わりを見つめるその目が優しいものであるからこそ、この囁くような声を聞きとらせてもらえました。本当にありがとうございます。

在宅ケアの自主上映会+懇談会 その後

1月27日(日)『いせトピア』ホールで「終わりよければすべてよし」上映会を実施し、伊勢市での「一人暮らし・二人暮らし」の基盤はどうなっているのか、懇談会も行いました。合わせて260名余の方が参加され、半数以上が懇談会に残られました。アンケートも多数寄せられ、映画の内容を今後も考え続けようと、勇気付けられました。

「終わりよければ」いせの会として市民の中に根付くように今後も活動してまいります。次回は、**3月13日(木) 19時 いせトピア1階会議室**

最初から空気なんて読むな!

直ぐに同調を求める社会は、果たして住みやすいものだろうか。「イケナイ」となると一斉に袋叩きにする。逆に「これがイイ」と言われると必死で買い占めたり、イイから誰にでもと強く勧める。ギョーザも赤福も浮沈を繰り返すのは時の流れ? なせ、行き過ぎを諭す言葉が力を持たないのか。

ばさばさに乾いてゆく心を

ひとのせいにするな

みずから水やりを怠っておいて

気難しくなってきたのを

友人のせいにはするな

しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立(いらだ)つのを

近親のせいにはするな

なにもかも下手だったのはわたくし

初心消えかかるのを

暮らしのせいにはするな

そもそもが

ひよわな志にすぎなかった

駄目なことの一切を

時代のせいにはするな

わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性ぐらい

自分で守れ

ばかものよ



「自分の感受性ぐらい」昭和52年 所収

茨木のり子(平成18年2月没)